

前月の園だよりにて言葉について書かせていただきました。ちょっとした言葉が嬉しかったり、その逆もあったりと一喜一憂してしまっていますね。それに生きていく中で忘れられない言葉に出会うこともあるはずですよ。

「うまれてきてくれてありがとう」

私事です、息子は生まれてすぐ入院、手術をしました。小さい身体でよく耐えてくれたと思いますが、それはそこに関わる医師はもちろん、三〇〇の看護師の方々が献身的に関わっていただいたからこそです。見舞いに行くときと大小様々な機器がずらりとあり、そこから繋がれた管が何本も乳児用ベッドに伸び、その中で赤ちゃんが横になっていきます。機器の電子音が絶えず鳴っている中で、看護師の皆さんは生きようと頑張る赤ちゃん一人一人に声を掛けながら笑顔で対応されていました。誕生から2ヶ月後、ようやく退院する日にスタッフの皆さんからメッセージをいただきました。メッセージの一番最後に書かれていたのが冒頭の言葉です。親が思うのは当然かと思いますが、大変な仕事の中でこの言葉を思い、こちらに掛けてくれたのか、と読みながら目頭が熱くなったのを今でも思い出します。

生を受けて、お腹の中で育って、生きて出てきてくれたこと、それだけで有り難いんですよ。有るのが難しい、当たり前じゃないから「有り難う」なのです。でも子どもとの生活の中で、分かっている良い顔ばかりしていられないのが、実際だと思えます。親だって人間ですから間違えることもあります。間違えた時、やっちゃったと思ったとき子どもはごめんねと言います。大人も間違えたら、言い過ぎたら子どもにごめんね、です。そして、うまれてきてくれてありがとうと一緒に伝えられるといいですね。

園長 梶原 秀一

今月の予定



豆まき 2/3 (月)

2日の節分にちなんで、保育園ではこの日に豆まきをします。子どもたちは心の中の鬼をやっつけることができるでしょうか…。※保育園では、大豆ではなく新聞豆を投げます！

リトミック 2/4 (火)

中島先生に今年度最後のリトミックのご指導いただきます。立ち姿勢や音への反応など子どもたちの生活にも浸透しています。

カレーライスの日 2/7 (金)

各学年の係活動もだいぶ板についてきました。匂いや温度、味、雰囲気など五感を通して感じる活動を今回も楽しんでいきます。

航空写真・集合写真撮影 2/14 (金)

園児、職員の集合写真を撮影いたします。10時から撮影予定なので、登園時には十分にご注意ください。

おべんとうデー 2/19 (水)

いつもお忙しい中ありがとうございます。朝からお弁当を嬉しそうに抱える子どもたちの顔はなんとも幸せそうです。

ランランフェスティバル 2/22 (土) 10:00~11:40予定

2歳児以上の子どもたちがこの日は参加します。少しずつ気持ちも高まってきていますよ。詳細は手紙を配布いたしますので、少々お待ちください。

交通安全教室 2/25 (火)

今回は「交通安全を楽しもう」というテーマで、クイズやゲームで交通安全について教えていただきます。

誕生会 2/27 (木) 10:00~

2月生まれのお友だちの誕生会です！お友だちのことを自分のことのように祝うことが自然になってきました。みんなでお祝いしましょう！

★お知らせ・★お願い

★園に必要な以外の持ち物について

最近園内で玩具の落とし物が増えています。登園の際にお子さんが持ってきていると思うのですが、口に入るような小さい玩具もあり、危険性も感じ始めています。園の玩具は管理できている、外部から持ち込まれたモノを見落とさないことは不可能と言えます。「大切な物はお家で使おうね」など各ご家庭でお話いただき、必要以外のものは持ち込まないことを改めてお気づきください。

★たびだちの日(卒園式)

3月22日(土) 10:00~

卒園のセレモニーを執り行います。年長児、年長保護者の方のご参加となります。詳細は後日お伝えいたします。

※この日は土曜保育をおこないません。年長児以外のご家庭の皆様は何卒ご了承ください。

☆人形劇ありがとうございました！

1月28日皆様からの保護者会費を活用させていただき、人形劇を観覧いたしました。とってもクオリティが高く、楽しく、子どもたちも大喜びでした。ありがとうございます！

★ココロライブラリーについて

ココロライブラリーの絵本は保護者会費を活用して購入させていただいております。設置の目的は「親子で一緒に読み聞かせを楽しんでもらいたい」ことにあります。親子で一緒に選んで、親子で一緒にご家庭でお楽しみください。本を大切に扱うことも伝えていただけますと幸いです。

モニタリング

今年もやります。恐怖のド迫力の赤鬼を。

「鬼はエンチョウゴリラだもんね。全然怖くないよ」と言っていた子まであまりの恐ろしさに泣き叫びます。他の園の園長に、本園の豆まきの動画を見せたら、自分の園の赤鬼は、なんといい加減で、迫力のないつまらない鬼だろうと、感心しきりでした。泣きながら戦いを挑んでいる子に、最後は敗けることにしています。恐怖心を残したままにせず、正体を明かします。「君たちは、なんて勇敢で強いのだろう。君たちには勝てない。もう悪いことはしませぬ。どうか許して下さい」と、手をついて謝ります。そして、お面を取ると、さっきまで、大泣きしていた子が、「やっぱり園長ゴリラだ！わかっていたもん。全然怖くなかったもんね。」と笑顔になり、抱き着いてきます。しかし、サンタは決して正体を明かしません。夢を壊してはならないのです。できるかぎり万全に変装し、声色を変えて演技します。3、4歳児は信じ込みます。5歳になると、クリスマス会を楽しみむより、疑いの目を凝らし、じつと観察し、バケの皮をはがしてやるぞ、と身構えている輩がいるのです。▼クリスマス会を前にしたある日、月組のN君達が、「今日は僕たちのクラスで、給食を一緒に食べてよ。約束だよ！」と私を強引に拉致しました。給食を食べ始めると、クラスのリーダー格のK君が、突然、私に向かって、「クリスマス会のサンタは園長ゴリラだぞ。あの目はこの目だった。声もこの声だった。サンタのいる間は、園長先生はいなかったし、サンタが帰った後に、園長先生が出てきて、園長先生の服にサンタの白い髭が付いていた。サンタは絶対に園長先生だ！」と去年のことを詳細に記憶していて、自説を見事に展開しました。それでも、「あれは園長ではないよ。本物のサンタだよ。」と擁護してくれる子もいましたが、クラス

の子どもの様子も激変し、みんなの私を見る目が冷ややかになっていました。私は「サンタが来た時は、後ろで見ていら、見て」と、髪をかき上げて反論しましたが、K君の追求の方が圧倒的に優勢でした。▼このままではまずいとい計を案じました。そして、当日の朝、秘かに代役をK先生に頼みました。クリスマス会も佳境に入り、いよいよサンタ登場。子ども達は、立ち上がり、両手を上げて「サンタが来た、本物のサンタが来た」と大騒ぎです。すると、大きなK君が、みんなを制するように、「園長ゴリラだ！あれは園長先生だ！ニセモノだ！」と声を張り上げ、執拗に叫び続けました。そこで、手はず通り、サンタが「ミスターアサダ、マイフレンドアサダ、私のお友達はどこ？」と呼びかけ、私が登場し、サンタが「オーマイフレンド」と言いながら私と握手しハグしました。K君は、驚愕のあまり、口をポカンと開け、大きく目を開き、「僕の立場はどうなるんだ！」とばかり、サンタと私をキョロキョロ見比べ、うろたえていました。クリスマス会の後、子ども達はみんな、「本物のサンタが来たよ」と喜んでいましたが、K君はうかない顔で静かに「サンタと友達だったんだね」とポツリと言いました。私は彼が可哀想になってきました。「みんなが本物だと喜んでいてるからしようがないよ。園長先生とそっくりだったもんね。でも、いつか君の目が素晴らしいことがわかるよ。」とか、なんとかいいわけがましく慰めにならない言葉で、彼を慰めようとしていました。モニタリングではないので、正体を見せるわけにはいきらないのです。みんなの夢のためにはK君許して下さい。本日は君が正しいのです。

理事長 浅田 精利

●追伸、保護者の皆様、この文章は極秘です。決して子どもの前で話題にしないでください。